

「中部電力浜岡原子力発電所見学会」レジュメ

日時：2013年5月10日（金） 13:10 ～ 16:30
場所：静岡県御前崎市、中部電力浜岡原子力発電所

日本技術士会、原子力・放射線部会の主催で題記の見学会が開催された。浜岡原子力発電所は、全て沸騰水型原子炉（BWR）で、現在、1，2号機は既に運転を終了して廃止措置が進行中、3～5号機では地震・津波対策工事が進行中であり、いずれも運転はされていない。見学会には原子力・放射線部会から24名、その他の部会から8名（電気電子3名、建設2名、機械、農業、生物工学各1名）、合計で32名と多数が参加した大変有益な見学会であった。以下に概要を報告する。

5月10日（金）12時15分過ぎに掛川駅南口に集合し、貸切バスに同乗して浜岡原子力発電所に隣接する原子力館へ移動した。原子力館の会議室では、中部電力の総括・広報グループの岩崎氏他より、地震・津波対策及び1、2号機の廃止措置状況等について、スライド資料や動画により概要説明を受けた。

その後、原子力館内の実物大の原子炉模型、防波壁の模型を見学、展望台より、サイトの状況について説明を受けた。続いて、中部電力のバスでセキュリティゲートを通り発電所構内に移動、最初に防波壁の状況を見学した。防波壁は、総延長約1.6kmの地上高12m（海拔18m）でほぼ完成しているが、今後、4mの嵩上げを予定している。また、緊急時海水取水設備のポンプ追加設置の状況、原子炉建屋に強化扉と水密扉を追加し、4重となる浸水防止対策の状況、災害対策用発電機等を見学した。さらに、5号機の建屋において、中央制御室の状況、原子炉建屋最上階の状況を見学した。

その後、海拔約40m高台に移動し、ガスタービン発電機(6台)及び付属する軽油タンク等の設置状況を確認した。今年末までに工事を終了する予定とのことであった。最後に、原子力研修センター内の技術伝承向け展示「失敗に学ぶ回廊」を見学、さらに、原子力館に戻って質疑を行い、理解を深めることができた。

原子力発電所の安全対策については、東京電力福島第一原子力発電所の事故直後から、浜岡を含めて各原子力発電所において、非常用電源装置の追加、注水設備の強化、防波壁の強化、建屋内の浸水防止等の対策を積み重ねてきている。さらに、原子力規制委員会は、このような安全対策を規定する新規規制基準案を策定・公開し、4月11日より意見募集を行ったところである。今後、7月18日までに新基準が施行され、各発電所の安全審査が行われる予定となっている。

浜岡原子力発電所は、BWRということで、今後、非常用のフィルタベントの設置、取水槽他の溢水対策の実施等、施設を追加する必要があること、また、内閣府の「南海トラフ巨大地震の被害想定（第二次報告）」を受けて、長周期地震動等の検討状況等を踏まえて、必要な浜岡固有の対策を進めていくとしている。さらに、現在実施中の防波壁を含む津波対策についても、耐震性の精査や必要な設計見直しを図りつつ工事を進める必要があることから、対策完了目標は2014年度末となっている。

事故の経験を踏まえれば、国民の理解を得るためにも、安全性を高める対策は必須であり、今後、運転再開に向けては、これらの具体策について、規制委員会の厳格な審査を経る必要がある。さらに、電力事業者も、地元や国民に向けて、安全対策についての説明を尽くしていく必要があると考えられる。



原子力館での説明状況



防波壁の前での参加者全員の集合写真

井口幸弘 記